

CONTENTS COMBAT

2017.Feb.
No.491

2

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
Munekki Samejima
©WORLD PHOTO PRESS 2017

※本文中の価格は
消費税込みの
総額表示です。



【第1特集／1911】

020 特集 全米に愛されたマスターピース

1911

THE MASTERPIECE AS KNOWN AS "GOVERNMENT"

- 022 閼銃1911
THE SHORT HISTORY OF GOVERNMENT 1911
- 036 45オートのレジェンド
国本圭一とザ・キング・オブ・セミオート「M1911ガバメント」
- 044 WESTERN ARMS マグナブローバック・
モデルM1911シリーズ・ラインナップ
- 048 LEにも愛用されてきた米陸軍制式採用銃、その実際
1941 COLT "M1911A1 U.S.ARMY"
- 056 銃番勝負 ミリガバ VS カスタム
- 060 東京マルイ M1911シリーズ・ラインナップ
- 170 Spin Off!
1911 実銃とエアソフトガン撃ち比べ!
- 174 Anchor Column
コルトM1911A1、ひと夏の思い出

【第2特集／ミリタリー】

- 070 The Equipments of the U.S. Force
【現用米軍装備カタログ】
韓国のタクティカル・テラーSEMAPO GEAR パート2
●解説：松原隆 ●撮影：山崎 学

090 ニッポンのカコぶ

- 117 Militaria Roundup!
太平洋戦線の日本海軍陸戦隊とアメリカ軍の軍装 Part.1
●解説：菊月俊之

【第3特集／トイガン】

- 004 COMBAT FRONT LINE 東京マルイ・ニュープロダクツ
- 004 HK416 DELTA CUSTOM
- 010 フルオート電動ショットガン SGR-12
- 011 ガスブローバック ニューモデルラインナップ
- 012 東京マルイFESTIVAL 3rd in ベルサール秋葉原

- 080 WESTERN ARMS
COLT M1911 EARLY BLUESTEEL CUSTOM
●Photos & Text by SHOTGUN MARC
- 085 WESTERN ARMS
AGING CUSTOM SERIES
●Photos & Text by SHOTGUN MARC

- 013 COMBAT FRONT LINE
- 062 HELIKON-TEX ニューアイテム
●Photos&Text by Tomo Hasegawa
- 094 NEW GENERATION STYLER
●fujiwara
- 104 サバゲ三等兵 特別編!
●織本知之
- 112 THE WORLD OF LITTLE ARMORY
- 114 WANCHER'S STYLE ●織本知之
- 116 ミリいじ技研 ●by Tomoyuki Orimoto
- 128 PRESENT
- 146 PROJECT NINJA
●morizd(東京装備BAKA)
- 148 ESSショールーム・オープン!
- 154 トイガンニュース
154 タナカ S&W M&P 360マグナム
155 タナカ H&K P8エボリューションHP (試作モデル)
- 156 兵装嗜癪 ●by fujiwara
- 196 Goods & Accessory
- 200 中田商店グッズ
- 202 S&Grafグッズ

- 129 GAME OVER THE TOP
- 132 サバゲ三等兵APS編
- 134 アラフォーズ!
- 137 編集長日誌
- 138 US SHOOTING LIFE
- 140 トイガンズ・ジャンクション
- 177 バックナンバーリスト
- 178 ミリタリー・コレクション
- 180 レア・ミリタリー・コレクション
- 182 A STITCH IN TIME
- 183 アームズファン・フェスティバル
- 184 狩野健一郎のシネマ放浪記
- 185 狩野健一郎の新作DVD紹介
- 186 蛙のゆびさき
- 188 戦車兵通信 WORLD OF TANKS
- 190 コンバットマガジン・インフォメーション・センター
- 191 読者プレゼント応募方法
- 192 編集後記



HK416 TOKYO MARUI

DELTA CUSTOM

Photos & Text by Taku
東京マルイ
☎03-3605-3312
http://www.tokyo-marui.co.jp/

COMBAT
FRONT
LINE

[Special]



HK416 デルタカスタム

全長：未定
重量：未定
装弾数：82発
価格：未定

色調の異なる5色のタンカラーで構成されたボディはミリタリーテイスト満載でカッコ良い。要所要所に黒いパーツが使われていて良いアクセントになっている。

去る11月26～27日に開催された「東京マルイフェスティバル3」にて、次世代電動ガンの最新作が発表された。H&K社のM4系クローンモデルであるHK416をベースに独自のカスタマイズが施された「HK416 DELTA CUSTOM」である。

その名の通り、このモデルをデザインしたのはアメリカ陸軍に所属する特殊部隊の一つである「DELTA FORCE (デルタ・フォース)」だ。アメリカ政府がその存在を認めていないため、詳細については語られていないが、対テロを主な作戦としていると言われている。

特殊部隊の隊員は作戦の特異性から、一般の兵士とは使用する火器も装備も大幅に異なる。最前線に赴く事が多く、したがって使用する火器も信頼に足るものでなければならないのだ。

東京マルイでは、このデルタ隊員がデザインしたHK416のカスタムモデルを次世代電動ガンの次期新製品として発表した。

ベースとなるHK416自体がアサルト

ライフルとしては優秀なモデルとして定評があるだけに、カスタムは外部アクセサリーのアップデートとカラーの変更が主な変更箇所である。

優れたアサルトライフルとはいえ、用途や目的に合わせて突き詰めていくと、どうしても物足りない部分が出てくる。そういった部分をフォローするのがカスタマイズの基本なのだ。

まず特徴的なのが、そのカラーリングだろう。色調の異なる5色のタンカラーによって構成されており、色の違いがアクセントを生み出し、魅力的な仕上がりとなっている。

ハンドガードはマルイ初の採用となる10.5インチのガイズリータイプ。スリムで細身のデザインのレールハンドガードであり、付属する長さの異なるオプションレールを任意の位置に取り付けて使用するのが最近のトレンドだ。

その他にもKNIGHT'Sタイプのフリップアップサイトやクレーン・タイプ・ストック、シユアファイア・タイプのフラッシュハイダーなどを装備するなど、アクセ

サリーも充実している。

発射メカは定評のある“シュート&リコイル”を搭載。実射性能についても期待できるのは間違いない。発売時期は2017年の1～2月辺りを目指しているようだが、ハッキリとした発売時期は現在のところ未定だ。

当日、会場では新作のプロモーションビデオが公開されていたのは、会場に足を運んだ方ならご存知の事と思う。見逃してしまった人もYouTubeの東京マルイ公式チャンネルで観られるので、ぜひ見て欲しい。東京マルイではこういったプロモーションビデオを製作し、イベント会場で効果的に使用している。このような映像はもちろん、製品に関する情報については完全非公開で行なわれるワケだが、今回、東京マルイのご厚意により特別にロケ現場取材する機会を得た。これは非常に稀な事で、かなり特別なケースなのだ。

撮影が行なわれたのは、まだまだ残暑厳しい9月某日、栃木県にある(株)松井建設様の採石場。現役で稼働してい



THE MASTERPIECE
AS KNOWN AS
"GOVERNMENT"

1911

全米に愛された
マスターピース

100年以上も前に天才銃器デザイナーであるジョン・モーゼス・ブローニングが設計したM1911、通称“ガバメント”。1985年にベレッタM9に制式拳銃の座が奪われるまでの約70年の間に、米軍制式拳銃として兵士のみならず警察、セルフディフェンス、シューターなど全米で愛されたハンドガン。今なお現役である1911の魅力を徹底的に追求する!



闘銃1911

THE SHORT HISTORY OF GOVERNMENT 1911

THE SHORT HISTORY OF GOVERNMENT 1911



コルト M1911。

1911年の採用からすでに100年以上が経過している。軍用銃としてスタート。数多くのバリエーションやクローンと呼ばれるメーカー違いの1911モデルが造られ、現在も数多くの製品が新たに造られている。これほど長い間、大きな設計変更も無く第一線で活躍してきた銃は他に類を見ない。戦闘銃のパイオニアにして最強拳銃。なぜ1911がこれほど愛されているのか？“闘銃”として現在も進化し続ける名銃の魅力。

●Photos & Text: Tomo Hasegawa

●コルト Mk.IV シリーズ'70

コルト社の民間用M1911モデルのひとつ。1970年から1983年までの生産で、後にファイアリングピン・セフティが付加され、トリガーの感触が悪くなった事から、1911らしさを求めるファンから人気を呼んだという。



闘銃1911

時代によらず、どの分野にも“名作”と呼ばれるものがある。銃器も同じ。

本来は、性能そしてメカニズム、デザイン、さらに伝説や個人的な好みまで含め、評価が多種多様に分かれるものだが、揺るぎない価値感を以て名銃に相応しい一挺がある。それが“1911”だ。

【コルト1911】

45オート、G.I.コルトなど、様々な呼ばれ方で親しまれている。日本では“コルト・ガバメント”という呼び方が一般的。凄いのは銃器やミリタリーに興味が無い人でも知っている人が多いこと。その名を轟かせた名銃中の名銃だ。

コルト社の他に数十社から同じデザインの製品が造られ、現在も新型が登場し続けている。“1911モデル”というのが世界標準の通称になっている。



CUSTOM



これまでたくさんの1911カスタムに触れ、各種試合に挑んできた。トリガーチューンに始まり、各部の調整をいろいろ実践。スライドを引くだけで問題箇所が推測できるようになれば大したもの。

設計はジョン・ブローニング。「一発で敵の動きを止められるパワーを有した拳銃」という要望に基づき、.45口径モデルとして造られた。まさに闘うための銃“闘銃”としてデザインされたのだった。

1911年に“M1911”としてUSミリタリーに制式採用。1921年の改良から“M1911A1”に変更経られ、1926年に制式採用されて第1次世界大戦、第2次世界大戦、朝鮮戦争、ヴェトナム戦争を闘い抜いた歴戦の勇士。1985年にベレッタM9に制式採用銃の座を明け渡したものの、実に70年もの長き間、アメリカの軍用銃として君臨。闘銃としての真価を發揮してきたのだった。

その後も、戦闘拳銃のトップとしての評価が下がったわけではなかった。ミリタリーやボリス、組織の違いによらず各種特殊部隊やスワットなど、プロフェッショナル達には1911の愛用者が多い。部隊の制式銃が別に定められていても1911を使

Interview

.45オートの レジェンド 国本圭一と

ザ・キング・オブ・セミオート

M1911 GOVERNMENT

アメリカで.45オート・ガバメントのコンバット・シューティングに挑んだ
ハンドガン・シューター 国本圭一氏に、その魅力を語ってもらった。

●Text: SHOTGUN MERCY

KEIICHI KUNIMOTO'S EPISODE of M1911 GOVERNMENT



7、15、25、50、100ヤードにターゲットを設置した広いレンジ。通常は連射やホルスターからのドロウ・シュートは禁止されているが、毎日通っていた国本さんは、レンジに他のシューターがいない時に限って、自由なスタイルで撃つ事を特別に許可されていた。

今から45年前、1970年代前半のアメリカで、日本人として初めて実弾によるコンバット・シューティングに挑んだ.45オートのレジェンド、国本圭一氏に“M1911ガバメント”の全てを語っていただく。

「1971年10月に『改正銃刀法』が施行されたため、金属製のハンドガン型モデルガンは銃身内を完全に埋め、グリップ以外の本体を黄色か白に塗らなければならなくなった。いわゆる『昭和46年規制』です。

当時、私が映画やイベントで使用していたステージガンも当然、この対象になったため、黒いままでは使えないし、銃口から音や煙を出す事もできない。そんなステージガンでは、リアルさに欠けますよね。それでいっそアメリカに行って本物の拳銃を撃とうと思ったんです。

ファーストドロウを極めたい。同時に.45オートを使った新しいコンバット・シューティングも学びたい。その思いだけで単身渡米しました。

当時、.45オートを使ったコンバットシューティングが盛んになり始めていた時代でした。その背景には、ピースメーカーを使った実弾でのファーストドロウの減少がありました。実弾での実施が危険だという理由で、銃器メーカーの スポンサーが減ったため、実弾から blanks (空砲) へと移行していったのですが、射手達からすれば blanks (空砲) では面白くない。そこで、.45オートの人気が高まってきたわけです。アメリカの拳銃射撃界が、変化していった時代だったんですね。

テキサスに着いて最初に購入したのが、射撃競技専用の銃として、現在もコルト社が製造している“コルト .45 ナショナル・マッチ” “2nd. ジェネレーションの.45SAA” “.38ダブルアクション・リ

ボルバー”の3挺、そしてリロードマシン (弾丸を作るための機械) でした」

コルト .45 ナショナル・マッチ

「ナショナル・マッチを購入して最初にした事は銃の分解でした。各部がどうなっているか、どう加工されているか。各パーツがどう作られているのか。その銃の全てを知りたかったんです。

例えばスライドやフレームは、
『なるほどここは縦フライスだな、ここは横フライスだな』

とか、
『ここはセーパーで加工しているな』
とか。各パーツの製造工程を見ていくと、なかなか面白い。

バレルは、普通の70シリーズとは違って、特別に精度のあるものが使用されていました。

シアーには、スプリングで作動する小さな“シアア・アシスト・レバー”というパーツが付いて

テキサスに渡って再世に購入したコルトのスペシャル・モデル、“ナショナル・マッチ”。出荷前に命中精度をテストした際の、ターゲット・ペーパーが付属していた。



LEにも愛用されてきた
米陸軍制式採用銃、その実際

1941 COLT “M1911A1 U.S.ARMY”

1912年にUSアーミーに制式採用されて以来、1945年の第2次世界大戦終戦までに270万挺以上製作、納品されているサイドアーム。それがM1911とM1911A1モデルである。

今回は、1941年製のM1911A1にスポットライトを当て、元麻薬取締捜査官だったオーナーに話を聞くことができた。

●Photos & Text: Hiro SOGA

● COLT 1991 series 80

● 1941 COLT M1911A1W

1941 COLT “M1911A1”

HELIKON-TEX Brand New ITEMS

“WOLFHOUND”/“Urban Tactical Pants”/
“Winter Baseball Cap”/
“Folding Baseball Cap”/“COBRA Tactical Belt”

●Photos&Text by Tomo Hasegawa
●問い合わせ先 / 中田商店 1a.03-3839-6866
HP URL <http://www.nakatashoten.com/>



ポーランド生まれの気鋭
タクティカルウェア「ヘリコンテックス」シリーズ。
“スタイリッシュ”さに秘められた、
堅牢かつ快適な“実用性”。
“都市型”戦闘服の進化形、
最前線のラインナップが勢揃い!!



COBRA Tactical Belt

価格7,800円

頑強なベルトバックルとして人気の“コブラバックル”。これを採用した“ヘリコンテックス”のタクティカルベルト。ブラック、OD、カーキ、シャドウグレイの4色あり。



ピストルベルトとして、装備を取り付けてジャケットの上から締めるのもGood!



ベルトを通せばタクティカルパンツのベルトループにも通しやすい。



機能美の追求

動きやすさだけを見れば、従来のタクティカルウェアのように大きめに作れば良い。しかし、太いだけではポケットにアイテムを収納した際、暴れて邪魔になる事がある。ヘリコンテックスの製品は見た目スリムなのに動きやすい!

この点が従来のタクティカルウェアと大きく異なるポイントだ。

目的が曖昧では、デザインの鋭さがなくなってしまう。アパレルだが、タクティカルウェアは流行やモードに扇動されるだけのファッションではない。“着た時の快適

さ”こそが大切な要素。戦闘用に動きやすく疲れない事はもちろん。使い易さを追求した“機能美”あるデザイン。これこそがヘリコンテックスの魅力だ。

高精度の機能性

特に懸案だったのが冬場の装備。寒い時は厚着を余儀なくされる。しかし身体を動かせば発熱し暑くなる。まだ暑いだけならいいのだが、汗を冷やすと体力を激しく消耗する。衣服の着脱しやすさも、大切な機能性である事が見えてくる。さらに、脱がずにすむベンチレーション(排気)機能があれば最高。体温を快適に保ちやすい。

また、衣服の上からベルトやチェストリグなどを装備しやすいかどうかも大切な要素だ。シャツやパンツだけでなく、ジャケットや防寒具にも「高精度の実用性」が際立つのがヘリコンテックス社のデザイン。サーplus→ミリタリー→タクティカルへ。“強い”アパレルの復権。これを次々に体現して見せるトップブランドだ!

防寒新感覚の“快適” 防寒?! “ウルフハウンド”

これまでのタクティカルウェアと言うと、「ラブ」な服」という印象が強くあった。そ

季節によらず機能的に開る最先端のデザイン。
“ヘリコンテックス”社の最新アイテムに注目!!

